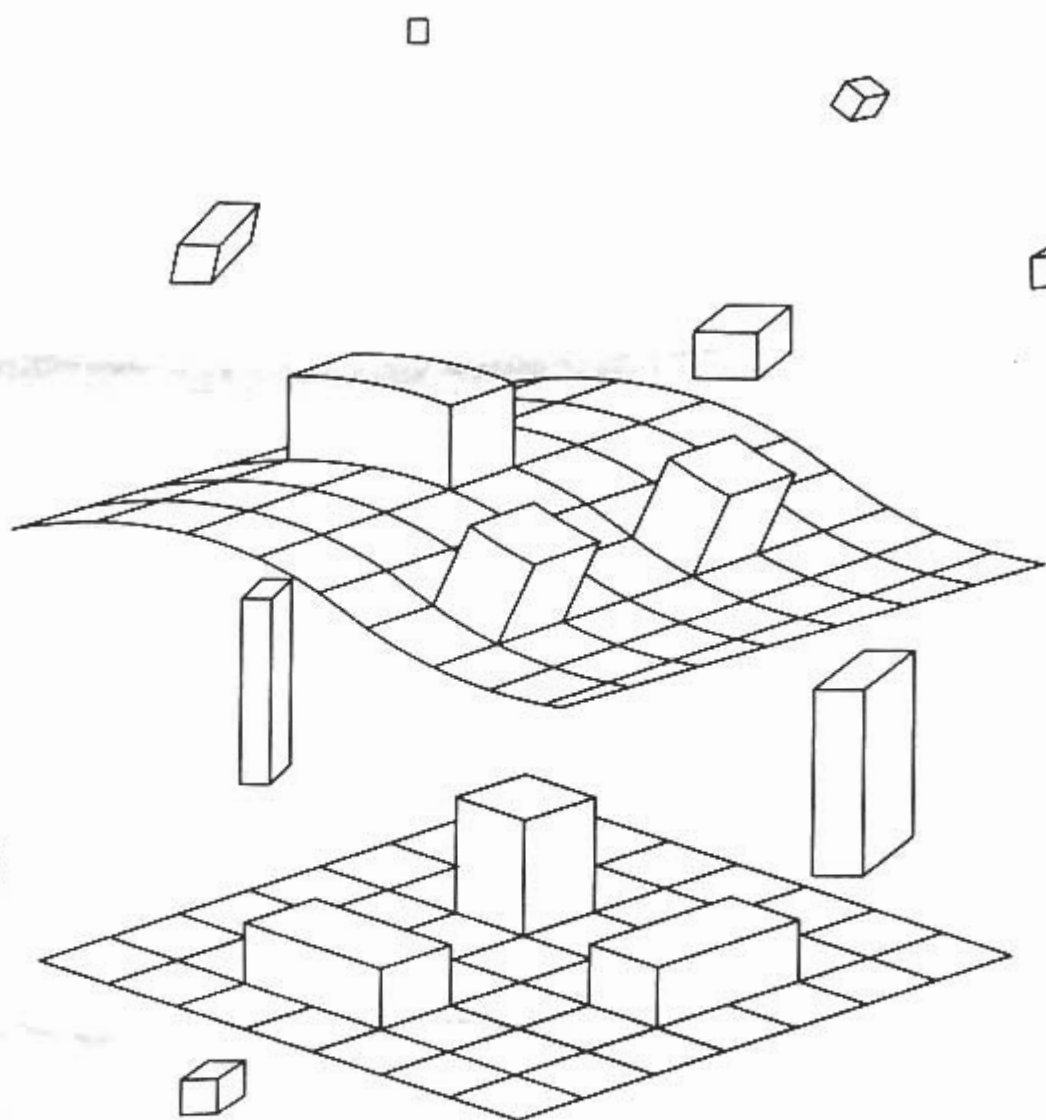


ITSUMIKAI



目次

「五三会」創立35周年記念パーティー開催の御案内…	1
会長あいさつ…	2
トピックス…	3～4
五三会建築設計競技会…	5～8
広島工業大学建築・環境系職員名簿…	9
五三会活動報告…	10
五三会収支決算報告…	11
五三会会則…	12～13
編集後記…	14

NO. **31**

平成16年度版

「五三会」創立35周年記念パーティー開催の御案内

五三会（工学部旧建築学科、旧土木工学科建築工学コース、工学部建設工学科、環境学部環境デザイン学科卒業生を母体とする建築・環境系同窓会）は、2004年（平成16年）4月に創立35周年を迎えることになりました。現在、これら学科の卒業生も約7500名以上を数え、様々な分野で活躍されていることは、皆様御存知のとおりです。五三会創立の目的は「会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献する。」とされており、会誌の発行、設計競技、交流会（新入会員歓迎会、座談会、忘年会など）の開催、著名な建築家の作品見学会、講演会などを実施しています。活動をより多くの方々に紹介していきたいのですが、役員の力不足もあって、活動への参加が限られた範囲に留まり、なかなか広がらないのが現状です。

このような状況の中で、2003年は五三会としてとても大きな展開がありました。それは、本格的なホームページの運用が始まったということです。これまでは、活動情報がなかなか行き渡らないジレンマがありましたが、今後は色々な面で、大きな力を発揮するものと期待しています。もう一つ、設計競技が年とともに充実し、今回の第30回は、石田敏明氏（前橋工科大学教授 広島大昭和48年卒）を審査員にお迎えし、規模を拡大して実施いたしました。五三会設計競技が30年間継続し、さらに本格的に全国募集となりましたことも、会の活性化に大いに貢献していると思います。（五三会ホームページ <http://www.itsumikai.jp/>）

さて35年も経ちますと、第1期生1969年（昭和44年）の卒業生と2004年（平成16年）の卒業生の年齢は、親子ほどの開きがあり、1期生では定年を迎える者もおります。時代背景を考えてみても、戦後、豊かさを求め、利便性や経済優先の社会を追求し、バブル期そしてその崩壊を経験してきた団塊の世代、そして現在はネット社会、グローバル社会の真只中であり、年々拍車を掛けて若者や世代間の関係性が希薄になってきているような気がします。

こうした時代の節目となった今日、各世代の人達が集まる記念パーティーを開催し、今一度「五三会の目的」の意味を考えてみる機会が必要なのではないかと企画いたしました。何卒、趣意を御理解いただき御参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

記念パーティー

実行委員会委員長 渡辺 武彦（1969年卒（1期））

TEL 082-273-9581

五三会会長 梶山 孝之（1974年卒（6期））

TEL 082-854-5837

記

広島工業大学建築・環境系同窓会

「五三会」創立35周年記念パーティー

日 時：平成16年6月12日（出） 19：00～

場 所：リーグロイヤルホテル広島

広島市中区基町 6-78 TEL 082-228-5401

会 費：10,000円

申込み方法：参加御希望の方は、電子メールまたはファクシミリにてお申し込み下さい。後日、チケットと会費振込用紙をお送りいたします。

名前・卒業年度・送付先郵便番号・住所・E-Mailアドレスを明記の上

受付け業務受託事務局 E-Mail: info@itsumikai.jp

まで（施工房知の匠） FAX：082-511-8899

※五三会ホームページからお申込みいただけます。<http://www.itsumikai.jp/>

ごあいさつ

会長あいさつ



五三会会長
堀山孝之 (S49年卒)

広島工業大学建築・環境系同窓会「五三会」の7,500名を数える会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか。この「五三会」に対して、皆さんはどんなイメージや考えをお持ちでしょうか？あるいは、何を願ひ、何を期待されておられるのでしょうか？

これまで諸先輩を始め多くの同窓会内外の方々の御協力を得て、結果としてやっと今の「五三会」が存続しています。特にここ近年、「五三会」の活動を執り行っているのは、ごく一部の有志の会員の方々です。しかも、諸幹事の方々はやや固定化し、やっとの思いで活動を維持している感があるのも否定できません。それだけに、これらの方々の御理解と御協力は計り知れないものがあります。まさに、ボランティアであり、自己投資であります。自分の足元から、まさに社会的実践をしておられる自己研鑽だと思っております。

そんな中、「五三会」の在り方も時代と共に少しずつ変化してきた事と思われますが、現在行われている主な活動の内容を、次に簡単に紹介させていただきます。

- 「五三会・建築設計競技」：大きく門戸を開き、県内外の建築・環境系学科を有する大学・高専の間では、今やすっかり定着してきつつあります。平成15年度・第30回では、計70点の応募がありました。学生諸氏の為にも、環境・建築への「啓発と動機付」を願ってこれからも続けて行きたいと思っております。
- 「五三会・建築見学会」：学生諸氏と同窓生の皆さんで、近郊の建築等々を見て歩こうという企画です。時には設計者自らの説明を聞きながら見学することもあり、また見学会後の質問タイムを設ける等して、参加者同士の交流をも計っています。
- 「五三会・ホームページ」：平成13年度から開設し、五三会会員同士は勿論のこと、色々な方々と広く様々な情報交換をしていくことを主たる目的としています。
- 「五三会・交流会」：五三会への新入会員歓迎会、同窓生と在学生の座談会・忘年会、

その他の懇親会・交流会等が年に何度か開かれます。会員の皆様の御好みに合わせて、是非ともまず参加してみてください。

- 「五三会・懸賞制度」：建築・環境系の毎年の卒業設計の内から、最優秀なる作品を「学生大賞」として選び、卒業式の日に表示しています。また、全国的な功績や評価があった同窓生の方々にも、その都度、五三会から表彰させて頂いています。
- 「同窓会・五三会名簿」：この整理作業は、地味で、根気の要る作業です。しかしながら、誰かが少しずつでもまとめておかないと迷宮入りしそうなことです。
- 「ITUMIKAI」：年一回の会誌を発刊しています。五三会のホームページを開設して以来、経費節約もあって五三会の活動状況を最低限御伝えしています。

建築・環境に関して同じ広島工業大学で学び合い、卒業した者同士の連携の「場・機関」としての同窓会「五三会（いつみかい）」が創立されて、今年で35周年目を迎えます。これを記念して、今春6月12日出、「リーガロイヤルホテル広島」にて「五三会・創立35周年記念パーティー」が開催されます。これを機会に、より多くの方々に気楽に御参加を頂き、情報交換等の交流をして頂ければと思っています。

我々「五三会」の今後の行く末は、同窓生の一人一人の姿勢と実践の如何に関わっています。今一度自分達の育った立脚点に立ち返って、その一つでもある広島工業大学建築・環境系の同窓会「五三会」のその意味を改めて問い直して頂き、「五三会」へのより積極的な御参加、御協力を節に御願ひ致します。

最後に、「五三会」の諸活動に対し多大なる御協力を頂きました各大学の先生方、学生の皆様、諸官庁の方々、そして会報誌のスポンサー協力をして下さいました各企業の皆様方には、心から御礼を申し上げます。

今後とも「五三会」の主旨を御理解をいただき、御協力の程を宜しく御願ひ致します。

トピックス ～1年間の活動報告～

五三会交流会

交流事業部会

7月5日(由)広島工業大学広島校舎におきまして、在学生と五三会会員(OB)との親睦を深め、また、新入会員歓迎の意味も込めまして『五三会交流会』を行いました。

■第一部：OBと語る会

設計/施工/メーカー/行政といった各分野でご活躍のOBにパネラーをお願いし、パネルディスカッション形式で「OBと語る会」を行いました。最初に、各パネラーの皆様から、学生時代から現職に至る経緯や、現在の仕事についてお話しいただきました。その後、在学生の皆さんからの質問にお答えする方たちで活発な意見交換が行われました。

参加者は、OB14名、在学生15名の計29名でした。

パネラー

太田知典 (89年卒) / 川鉄鋼板㈱
川本大介 (89年卒) / 山根木材㈱
織田一昭 (90年卒) / 広島菱重興産㈱
弘津貴司 (90年卒) / ヒロツ設計室
清水山明 (93年卒) / 広島市

■第二部：歓迎・懇親会

会場を1階に移し、立食パーティー形式でOBと在学生の皆さんに、ざっくばらんに語りあっていただきました。会は盛り上がり、夕方6時半から8時半までの予定でしたが、9時過ぎ頃までにぎわっておりました。

五三会建築見学会

デザイン活動推進事業部会

見学させていただきました物件は、「なぎさ公園小学校」です。五日市駅から南に2km程、新しく埋め立てによってできた渚ガーデン・みずどりの浜公園に隣接しています。学校法人鶴学園の小学校で、平成15年春に開校したばかりの新設校です。設計は広島工大の卒業生で、現在は広島工業大学環境学部教授の村上 徹氏(72年卒)。設計者自ら約2時間にわたり興味深いお話をお聞きすることができ、またとない見学会となりました。また、予想をはるかに上回る参加者で、盛況な見学会となりました。

日 時：平成15年6月9日(明)

場 所：学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校
設計者：村上 徹建築設計事務所
参加者：130名

なぎさ公園小学校見学会の感想文

(参加者の中から2学生が原稿が次ページにあります)

コンペ入選

1月現在での在学生および卒業生のコンペ受賞状況のお知らせです。今年度も、全国レベルのコンペに多数入選しております。

表記

コンペ名

課題

受賞者・受賞者

所属

●在学生

2003年度 支部共通事業 日本建築学会 建築設計競技

「みち」

最優秀賞 横川貴史 久安邦明 安井裕之
大学院 環境学研究科地域環境科学専攻

2年

第17回 建築環境デザインコンペティション
「まちを活性化させる駅」

佳作 横川貴史

大学院 環境学研究科地域環境科学専攻

2年

第10回 ユニオン造形デザイン賞

「おおきい家」

優秀賞 藤森雅彦 谷尾尚隆

環境学部環境デザイン学科 4年

シェルク 学生設計競技 2003

「21世紀の木造住宅」

優秀賞 前田崇文 藤森雅彦

環境学部環境デザイン学科 4年

住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2004

「ユニバーサルデザインを取り入れた住空間とインテリア計画 学生の部」

支部長賞 藤森雅彦 前田崇文

環境学部環境デザイン学科 4年

第8回 飛騨・高山 学生家具デザイン大賞

「観光都市・飛騨高山のベンチーバリアフリー」

金賞 池上大地

環境学部環境デザイン学科 4年

●卒業生

第38回 セントラル硝子国際建築設計競技

「新しい時代の図書館」

入選 高橋将章

環境デザイン学科卒

新建築住宅設計競技 2003

「建築ウィルス」

2等 園部晃平

環境デザイン学科卒

第10回 空間デザインコンペティション 提案部門

「環境にやさしいガラス質の建築」

銀賞 園部晃平

環境デザイン学科卒

第30回 日新工業建築設計競技

「屋根と住む」

3等 花本大作

佳作 横田健司

花本 建設工学科、大学院環境学研究科地域環境科学専攻 卒

横田 環境デザイン学科、大学院環境学研究科地域環境科学専攻 卒

第7回 TEPCO 快適住宅コンテスト 提案部門 インターカレッジ選手権

「A House of Topography」

佳作 植木康剛 長田典之

環境デザイン学科 卒

なぎさ公園小学校見学会の感想文

広島工業大学 環境学部
環境デザイン学科4年 桜井 朗

6月7日(晴れ) 見学会参加のため、公園から敷地を南北に横切る緑道を渡り、校門側へと抜けていくと、「公園の中に学校がある」というような不思議な印象を与えられた。校地内へ入るとその印象はますます高まった。芝生張りのグラウンドや点在する緑地などにより、まるで公園の緑地が介入してきたかのような錯覚を受け、公園との一体感が感じられた。また、敷地の北側には直線的な2階建ての棟が建ち、公園側とは対照的な閑静な住宅地と、普段、子どもたちで賑わうであろうグラウンドとの緩衝体となっているように感じた。

そのほかの校舎は平屋建てで構成されていたが、屋上デッキやスロープ、地下道などにより、平面的な大地から、視線や動きに新たな変化が生み出され、子どもたちは好奇心を刺激されるであろうと思った。いたるところに散りばめられた様々なスケールの広場やオープンスペースは、子どもたちの活動の様子や、外部の自然を感じられる透過性を創出し、境界を曖昧化させていた。そのことが、視線や動線といったあらゆるものを緩やかにつなぎ、子どもたちの創造性をかきたてる場をつくりだされているように思う。

この学校は、学校自体が公園であり、校舎はひとつの大きな遊具であるといった印象を受けた。

子どもたちは、この大きな公園の中で様々なことを体験し、多くのことを学び、創造性豊かに育まれていくだろうと思う。

広島工業大学 環境学部
環境デザイン学科4年 井上裕史

はじめに、五三会をはじめ、時間を割いて説明してくださった村上先生、見学を受け入れてくださった学校関係者の方にお礼を言いたいと思います。本当に有り難うございました。この見学会は自分をはじめ、見学者皆にとって大変意味あるものになり、今後の学習意欲がますます向上したのではないのでしょうか。

この小学校全体を通して感じたことは、児童のスケールに合わせて空間や家具が決められていることがこんなにも人に変化を感じさせるのだということでした。黒板や手洗い場はもちろん高、中学年がある棟と低学年がある棟を繋ぐ渡り廊下を下をくぐった時に強くそれを感じました。逆に大人の我々から見ても高く感じた体育館や講堂兼教会は彼らから見るともっともっと広い空間に感じることでしょう。こういった空間や学年と共に変わっていく空間が全体に変化を与え、児童に日常性の中にも非日常空間を体験させる仕掛けが随所に見え隠れしているように思います。

グラウンド周辺にロール芝が敷き詰められていたことに個人的にはかなり興味をそそられました。私は以前ゴルフ場でアルバイトをしておりまして、そのために芝に関していろいろな興味が湧く訳です。ゴルフ場では芝の張替えなどを手伝いましたが四角形の芝を敷き詰めるため芝と芝がくっつかなかつたり根付かなかつたりと芝の生育の難しさを体感しました。そういった点からも、なぎさ公園小学校の芝張りグラウンドに魅力を感じてしまいました。芝の生育の難しさもさることながら、通常の見学会では知りえない蛍光灯の不規則な配列やパティオ内の植栽の固定方法など、目に見えない部分の難しさを聞いたことは貴重な経験でした。

屋根を見上げたとき屋根のエッジが細くなっているため屋根自体がすごく薄くできている感じがしました。そして中程の棟の屋上に登ったときに特に気持ちいい広がりだと感じ、そこで受ける青空授業は児童の楽しみの一つになると確信しました。そこから見える体育館は個人的に特に気に入っている場所です。体育館へのアプローチはまるで深海へと吸い込まれるようでした。その先にあった体育館はかなりの衝撃で、すごく気持ちよく感じましたが何らかの不思議な感覚を覚えました。それは多分ステージというか体育館内の方向性というか、それらが強く存在していないからだだと思います。そのことが体育館に開放感と視線の広がりを強くしているのではないかと感じました。



第30回記念五三会建築設計競技結果報告 30th ITUMIKAI COMPETITION

課題： 公・共の場 ～水の都、広島～

30回という節目を迎え、メインテーマ「広島のふれあいの場を考える」の、最終回となる本年度事業は、課題を「公・共の場～水の都、広島～」と題し、過去4回のまとめた意味合いをもたせて行いました。

母校、広島工業大学建築学科OBであり建築家として、また、前橋工科大学大学院教授として教鞭をとられるなど、様々な場面でご活躍の石田敏明先生に審査をお願いしましたところ、ご多忙にも関わらず快くお引受け下さいました。

建築の雑誌やインターネットのコンペ関係のサイトにも情報を載せていただいた今回は、昨年12月14日に応募締切を迎え、広島工業大学をはじめ、諸大学、高专から計70作品にも及ぶ力作が寄せられ、昨年度の最多応募作品数を更新しました。

12月21日に広島市まちづくり市民交流プラザ内のギャラリーにおいて、東京より石田先生にお越しいただき、応募された学生の皆さんや広島でご活躍中の建築家の先生方など80名以上が見守る中、公開審査会が執り行われました。また、石田先生におかれましては応募作品一つ一つに講評を与えながら、非常に丁寧な審査をして頂きました。応募総数の多さもさることながら、どの応募作品も力作揃いで甲乙つけ難く、大変悩まれたご様子でした。審査結果は右の通りとなりました。

入選の皆さん、おめでとうございます。

残念ながら誌面の都合により、ここでは入選作品の紹介のみに留まらせて頂きますが、応募された作品はどれも、一生懸命に取り組まれた様子が感じられました。審査会終了後は石田先生をはじめ、日頃公共の場に関する仕事をされている広島市職員の方々、設計の実務に携わっているの方々をお招きし、応募された方々との座談会を行いました。応募作品を基に公共の場の在り方について応募者である学生の皆さんと、現実に実務として携わっておられるコメンテーターの方々との間で、熱のこもった論議が交わされたいへん

有意義なものとなりました。

また、メインテーマ「広島のふれあいの場を考える」のまとめということもあり、会場内にて過去4回の入選作品を展示しましたが、こちらも多くの方々に見ていただくことができました。

今後とも、この設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い致します。

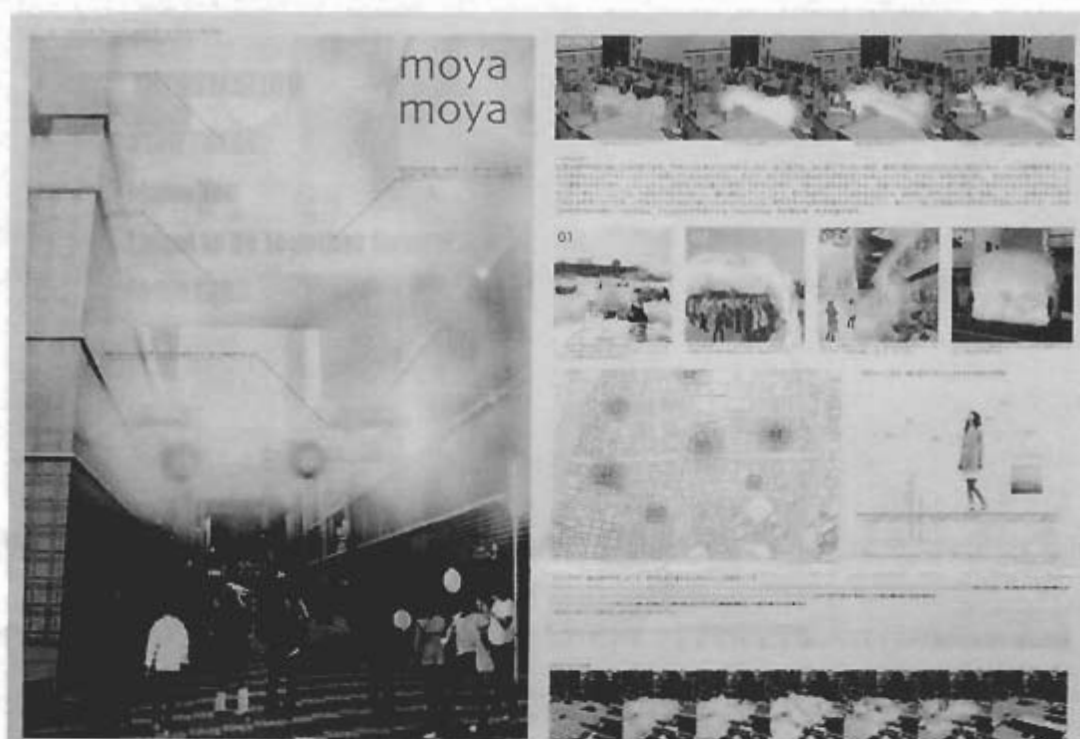
最後になりますが、石田先生にはこの建築設計競技事業にご理解を頂き、広島と東京という遠方にも関わらず、ご多忙の中審査、講評そして座談会にと貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。また、本年度事業も時間的余裕のあまり無いスケジュールでしたが、過去最多の応募をいただきましたこと、応募して下さった皆様にお礼申し上げます。

ご参加ありがとうございました。

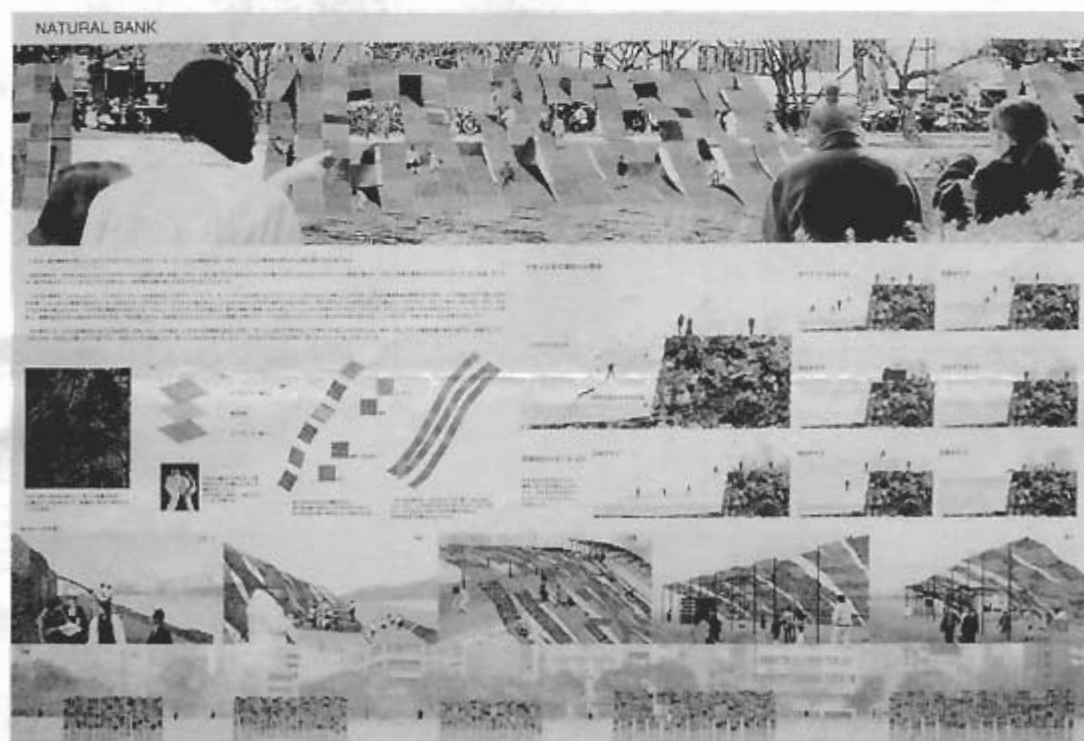
以上にて、本年度建築設計競技事業の報告を終わります。

審査結果（敬称略）

最優秀	横川 貴史 谷尾 尚隆 塚川 譲 (広島工業大学大学院環境学研究所 地域環境科学専攻2年)
最優秀	小坂 崇 貞重 亜沙美 佐本 健 (県工業高等専門学校建築学科富田研究室)
優秀	久安 邦明 植田 開 植田 曜 (広島工業大学大学院 村上研究室)
優秀	杉元 宣計 水島 未知代 宮田 和明 (広島工業大学環境学部環境デザイン学科)
優秀	植木 康剛 (前橋工科大学 石田敏明研究室)
アイディア賞	畑 克敏 (近畿大学大学院工業技術研究所 建築学専攻1年)
アイディア賞	沖野 正章 (穴吹デザイン専門学校 建築デザイン学科2年)



最優秀 横川 貴史 谷尾 尚隆 塚川 譲
(広島工業大学大学院環境学研究科地域環境科学専攻2年)



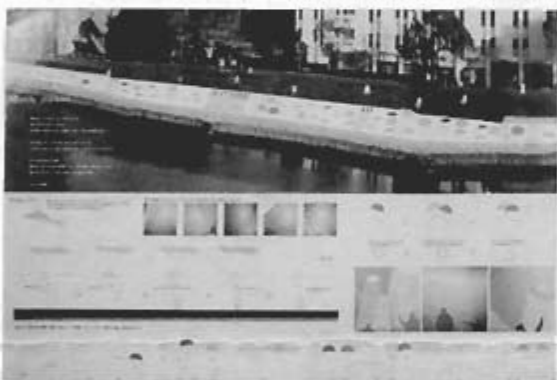
最優秀 小坂 崇 貞重 亜沙美 佐本 健
(呉工業高等専門学校建築学科 富田研究室)



優秀 久安 邦明 植田 開 樋田 暉
(広島工業大学大学院 村上研究室)



優秀 植木 康剛
(前橋工科大学 石田敏明研究室)



優秀 杉元 宣計 水島 未知代 宮田 和明
(広島工業大学環境学部環境デザイン学科)



アイデア賞 畑 克敏
(近畿大学大学院工業技術研究科
建築学専攻1年)



アイデア賞 沖野 正章
(穴吹デザイン専門学校
建築デザイン学科2年)

五三会のコンペは今回、記念すべき第30回を迎えました。数年前から公開コンペ形式となったそうで応募数も年々増加傾向にあり、今回は大学、高専、専門学校から70の応募作品がありました。大学の同窓会が主催するデザインコンペとしてはとても貴重な存在であり確実に地方の建築文化を生み出していると思いました。そうした伝統的なコンペの審査員を任された光栄と責任を感じつつ審査をした次第です。今回の課題は「公・共の場—水の都、広島—」という第26回からの「広島」のふれあいの場を考える」というメインテーマに沿った内容で第26回「水（川辺・海辺）」、第27回「都市の広場」、第28回「間（はざま）」、第29回「街・路」の様々な都市の断片的シーンを総括する提案が求められていました。言い換えれば、過去の提案を見据えた上で更なる新しい提案を求められていたわけです。ですから応募者にとってはかなり難しかったのではないかと思います。公開審査に先だって、机上に並べられたいずれも力作であるA1版（594×841）の70作品の中から公開審査に懸ける作品を10作品ほど選定する作業は限られた時間のなかで結構、至難の業でした。その中からテーマの理解力と新鮮で大胆な構想力とその表現力、思考の深度、もし実現できた場合の影響度とインパクトなどの項目に沿って選定していききました。もちろん、いくつかのタイプに分類できるので、その中から優れた作品を選候補として残し、表現力はあってもステレオタイプ化した案は意識的にはずすことにしました。

公開審査の会場はほぼ満席状態で、応募者も多数含まれていたようでしたのでその場の判断で選候補作品についてプレゼンテーションの機会を与えることにしました。その場に居合わせなかった応募者にとっては多少の不公平感は拭えませんが、あえて生の声を聞いてみたかったし、図面から読み取りにくい質問を投げかけてみたかったのです。自分としては、その方が公開審査にふさわしいと考えたからで、こうした審査システムは応募者の思考の深度を測るには良かったと思っています。その結果、最終的には最優秀賞2点、優秀賞3点、アイデア賞2点の計7点を選定しました。以下にそれぞれの案に対する講評を述べていきます。

最優秀賞の横川君他案「moya moya」は広島を地下水脈の地盤の上に存在する都市と認識した上で直接、水を表現とせず水のひとつの様態であるファジーな霧を街に発生させることによって場との新たな関係を作り出した案です。霧をデザイン要素に使った案は他にも数案見受けられたけれど、その中では最もコンセプトのしっかりしたファンタジックな表現が見事でした。小坂君他案「NATURAL BANK」は緑化したパネルを用いて川そのものと水際を自然に無理なく繋げることによって、新しいランドスケープ（土手）

をつくらうとした今日的なテーマを盛り込んだ意欲的なリアリティを裏付けるディテールまで考えられた好感の持てる案です。

優秀賞の久安君他案「Stream—ミズタマリ—」は川の干満差に着目し、時間の経過と共に変化する干潟のかたちによって都市との境界を曖昧化することとそこに出現したミズタマリを親水空間に変えようとする案です。かつては見られたであろう川辺の風景の記憶を呼び覚ます可能性を感じました。杉元君他案「moody parasol」はカサより一周り小さくランダムに配置された丸い孔の開いた屋根を架けた河川敷を散策路として提案しています。一見、クリストのアンプレ・プロジェクトを彷彿とさせる、異物を風景の中に出現させ自然と対比することで新たな認識を生みだそうとしています。雨の日がカラフルで楽しいような空間になりそうです。植木君案「Siden as an information medium」は広島市内を走る路面電車に動くメディアネットワークとしての付加機能を持たせ、デジタル情報サービスを市民に提供しようとした案です。交通渋滞の原因とも言われる路面電車をポジティブな思考で楽しもうとしています。

アイデア賞の畑君案「取り扱い説明書」は川辺に置かれたベンチの表面に特殊塗料の加工を施し、そこでの行為の痕跡を他の利用者に読み取ってもらうことで空虚な空間を親密なものへ変えようとする案です。アイデアはおもしろいのですが、川との直接的な関係が希薄なのが残念でした。沖野君案「shower curtain」は本通りの交差点に信号の替わりに水のカーテンを設置することで交通をコントロールしようとするとても斬新な案です。信号という無機能的な機械から都市空間へ積極的に参加するランドスケープとしても機能する、とても優れたアイデアで真夏の暑さや信号待ちのイライラを解消してくれそうです。表現力が弱いのが残念でした。

市民の人たちにとっても身近なテーマなので、こうした活動をもっと市民レベルにアピールして継続されることを希っています。また、長年コンペの運営を支えている関係者の方々への努力とそのボランティア精神に感謝します。



広島工業大学 建築・環境系教職員名簿

〔建設工学科 建築工学コース〕

氏名	住	所	郵便番号	電話番号
佐藤 立夫				
高松 隆祐				
宮崎 祐照				
浅野 照雄				
岩井 井哲				
福田 由美子				
玉井 宏章				
大林 真				

〔環境学部 環境デザイン学科〕

水田 一征
篠原 道正
森保 洋之
菅原 辰幸
野添 久視
黒岩 俊介
竹野 節夫
村田 徹子
田頭 昭洋
田中 良充
佐藤 加
西川 協
廣川 誠
清田 義
手越 泰
三村 孝
三好 祥
脇田 圭
平田 圭
ドナルド・ファウラー

平成15年(2003年)度「五三会」活動報告

幹事長 平田 欽也 (S60年卒)

●平成15年(2003年)度「五三会」の活動

□「五三会」総会・懇親会

平成15年4月19日

- ・前年度の活動報告や決算の報告
- ・次年度の計画案・予算案や役員改選など

□幹事会

- ・役員及び事業委員が各事業の遂行について話し合う
- 平成15年度は6回の幹事会を開催
- 場所：鶴学園広島校舎

□交流事業部会

- ・新入会員歓迎会・学生との交流会の開催
- 平成15年7月7日
- 場所：鶴学園広島校舎

□忘年会の開催

平成15年12月6日

場所：やぐら茶屋

□デザイン活動推進事業部会

- ・「五三会」建築見学会
- 平成15年6月9日
- 場所：なぎさ公園小学校
- 設計：村上徹建築設計事務所
- ・「五三会」建築設計競技の開催
- 公開審査会・表彰式・座談会
- 平成15年12月21日
- 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ
- 審査員：石田敏明氏

□広報事業部会

- ・会報誌「五三会」第31号の編集、発行
- ・五三会ホームページの更新、管理

□広告担当

- ・会報誌「五三会」に掲載いただく広告依頼者との調整

□「五三会」名簿管理担当

- ・「五三会」正会員名簿の更新、管理
- ・会報誌の送付

□顕彰制度認定事業委員会

- ・五三会栄誉賞の認定
- ・五三会学生大賞の認定
- 環境デザイン学科・建設工学科(建設工学)学生のうち、その年度において卒業設計が優秀と認められた学生の表彰を行う。

平成15年度(2003年)の主な活動を紹介しします

1)「五三会」ホームページ

2年前程前より、手越先生のご尽力により「五三会」ホームページを開設していましたが、掲載内容や更新についてのサポート体制が十分に整っていませんでした。平成14年度より本格的な運用に向けて準備をして参りました結果、平成15年度、大幅に内容や構成を刷新したホームページができました。五三会行事のご案内やご報告がタイムリーに行えるようになり、会員相互の連絡にも対応できるシステムとなっております。またこれを機にドメインを取得しました。URLは<http://www.itsumi-kai.jp/>です。

是非とも、「お気に入り」に追加していただき、身近な出来事やお知らせしたいことなど、どんどんお寄せください。今後は、できるだけたくさんの方に

アドレス登録していただき、インターネットを活用した新鮮な情報提供を進めていきたいと思っております。

2) 第30回 五三会建築設計競技

五三会建築設計競技では、26回から30回までの5年間のメインテーマを「広島市のふれ合いの場を創る」と定め、広島市の「公・共の場」の魅力的なあり方について創造し、皆で広島の都市デザインの可能性について考えて行くコンペを開催いたしました。今年度は締めくくりの5回目にあたり、広島工大卒業生で全国レベルでご活躍の建築家 石田敏明氏(前橋工科大学教授)に審査をお願いいたしました。募集方法も「五三会」ホームページの本格的な運用に合わせ、ホームページ上で公開することができるようになり、全国的な建築雑誌に募集掲載がされたこともあって、応募総数は過去最大の70作品を数えるに至りました。公開審査の後の行われた座談会では、石田先生と実務で広島の都市デザインに携わっておられる方々とコンペに参加した学生とで、活発に意見交換を行いました。

3)「五三会」創立35周年記念パーティー

来る6月12日の開催が決まり、広くみなさんに知っていただけるように、現在、ホームページ・会報誌・はがきでのご案内をいたしております。昨年より実行委員会組織を立ち上げ、開催に向けた準備を進めております。学年幹事(各年代で連絡等のお世話をさせていただく幹事)も選任いたしました。メディアでのPRも大切ですが、人と人との繋がりがである同窓会ですので、学年幹事さんから各年代のみなさまに、直接お声かけをお願いしているところです。厳しい時代だからこそ多くの世代の繋がりを大切にしたいと考えております。みなさまのご協力とご参加をよろしくお願いいたします。

平成15年05月27日 第一回実行委員会

平成15年11月26日 第二回実行委員会

平成16年02月12日 第三回実行委員会

平成16年06月12日 創立35周年パーティーの開催

●平成15年度役員

(会 長) 梶山 孝之(昭和49年卒)

(副 会 長) 松田 智仁(昭和55年卒)

落合 木堂(昭和56年卒)

(会 計) 田中 義登(昭和63年卒)

木下 和夫(昭和63年卒)

(会計監査) 松本 孝志(昭和52年卒)

神垣 聡志(昭和61年卒)

(書 記) 奥野 功貴(平成4年卒)

小瀬 宏治(平成6年卒)

(幹 事 長) 平田 欽也(昭和60年卒)

(副幹事長) 三島 久範(昭和60年卒)

(顧問) 山野 正晴(昭和54年卒)

【五三会事務局】

〒731-5193

広島市佐伯区三宅2丁目1-1

広島工業大学環境学部環境デザイン学科

菅原研究室内 TEL082-921-3121

五三会収支決算報告

平成15年度収支決算報告

(平成16年3月1日現在)

◆収入の部				(単位 円)
繰	越	金		5,848,043
新	員	費		635,530
広	告	料		210,000
利	息	収	入	15
合		計		6,693,588
◆支出の部				(単位 円)
会	議	費		32,421
バ	イ	ト	費	74,000
名	簿	作	成	7,826
印	融	機	関	19,820
金	難	手	数	665
広	報	費		3,440
会	報	誌	印	430,500
会	報	誌	郵	220,500
会	報	誌	取	126,180
設	計	競	技	0
企	画	活	動	320,000
新	入	会	員	2,100
学	生	大	賞	39,453
予	備	金		4,114
繰	越	金		0
合		計		5,412,569
合		計		6,693,588

平成16年度収支予算(案)

◆収入の部				(単位 円)
繰	越	金		5,412,569
新	員	費		800,000
広	告	料		200,000
合		計		6,412,569
◆支出の部				(単位 円)
会	議	費		100,000
バ	イ	ト	費	90,000
名	簿	作	成	10,000
印	融	機	関	40,000
金	難	手	数	1,000
広	報	費		10,000
会	報	誌	印	100,000
会	報	誌	郵	250,000
会	報	誌	送	150,000
デ	ザ	イ	ン	550,000
企	画	活	動	320,000
交	流	事	業	50,000
学	生	大	賞	100,000
予	備	金		30,000
繰	越	金		100,000
合		計		4,511,569
合		計		6,412,569

建築学科記念事業基金収支決算報告

平成15年度収支決算報告

(平成15年3月1日現在)

◆収入の部				(単位 円)
繰	越	金		1,434,859
利	息	収	入	12
合		計		1,434,871
◆支出の部				(単位 円)
会	議	費		45,530
印	融	機	関	13,200
金	難	手	数	525
在	学	生	交	5,310
在	学	生	流	77,791
在	学	生	助	100,000
記	念	事	業	228,012
記	念	事	業	152,150
繰	越	金		812,353
合		計		1,434,871

平成16年度収支予算(案)

◆収入の部				(単位 円)
繰	越	金		812,353
合		計		812,353
◆支出の部				(単位 円)
雑		費		10,000
在	学	生	交	100,000
在	学	生	流	150,000
在	学	生	助	200,000
記	念	事	業	352,353
繰	越	金		
合		計		812,353

広島工業大学建築・環境系同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学工学部旧建築学科・同土木工学科建築工学コース・同建設工学科・環境学部環境デザイン学科(以下、「建築・環境系」と称す)同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は、本部を広島工業大学内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置くことを得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
 - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関すること
 - (3) 会誌及び会員名簿の発行
 - (4) 母校に対する精神的、物質的援助
 - (5) 会員の功績に対する顕彰
 - (6) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築・環境系卒業生(大学院を含む)のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築・環境系卒業生
広島工業大学建築・環境系在学生(大学院生を含む)
 - (3) 特別会員 母校建築・環境系教職員及び旧教職員
 - (4) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められたもの

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長 | 置くことができる | (2) 会 長 | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名 | (4) 会 計 | 2 名 |
| (5) 会計監査 | 2 名 | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事 | 若干名 | (8) 書 記 | 2 名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
 - (2) 会長・副会長・幹事長・会計・会計監査・書記は総会で正会員の中から選ぶ
 - (3) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する

- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務を持つ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を総括する
 - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある場合は代理する
 - (3) 会 計 会計事務に当たる
 - (4) 会計監査 会計を監査する
 - (5) 幹 事 長 会務を主宰する
 - (7) 書 記 書記事務に当たる

- 第 9 条 役員の任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

第四章 顧 問

- 第 10 条 この会に顧問は若干名をおく。
- (1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する
 - (2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会 議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時、会長が召集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正
 - (2) 決算及び予算
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 14 条 役員会は会長が認めた時召集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附議する原案
 - (2) この会の運営に関する諸事項
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて役員により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会 計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
- 正会員は終身会費として、入会時に 10,000 円を納入しなければならない。
- 第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第七章 委 任 事 項

- 第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

本会則は、平成 8 年度から施行する。
旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。

編集後記

会報誌発刊にあたり御寄稿下さった方々、スポンサーの皆様に御礼申し上げます。
また、いつも五三会会報誌発行にあたり御支援頂きまして有り難うございます。
本年は、五三会創立35周年にあたり記念パーティーが開かれます。この機会に、35
年の歴史を感じ、また、世代を超えたお付き合いが出来る事を願っています。
今後とも、五三会の活動に御協力の程、宜しくお願い致します。

「五三会」第31号編集委員
三好 征一（H9）

（連絡先）

五三会事務局
広島市佐伯区三宅二丁目1番1号
広島工業大学環境学部環境デザイン学科
菅原研究室内
（〒731-5143）082-921-3121（代）

広島工業大学建築・環境系同窓会会誌
「五三会」 第31号

編集責任者 三 好 征 一
発行責任者 梶 山 孝 之
企画・製作 株式会社 エヌ・ティ・ティ・クオリス
発 行 平成16年3月